

## 第 63 回全国社会教育研究大会（石川大会 2021.10.28）参加報告

新潟市社会教育員会議（2022. 1. 24）雲尾周

会場：こまつ芸術劇場うらら（県内参加者限定）および ZOOM

## ア 分科会事例発表 10：00～11：40

小松市社会教育委員（第 5 分科会「社会教育委員の役割」より）大会冊子 71～76 頁  
 社会教育のレジリエンス ～これからの社会教育委員の役割を考える～

小松市の社会教育における課題：活動内容のマンネリ化、参加者の減少、担い手の不足、  
 高齢化の進行、地域住民のニーズの把握、社会の変化への対応  
 社会教育委員の活動における課題：現場に足を運び自分の目で「見て」「知る」機会の不足  
 →社会教育団体への関わりによる社会教育の活性化（社会教育委員が社会教育団体の活動  
 現場に行き、メンバーの話聞き、課題の洗い出し、改善の参考となる情報提供）

- ・活動シート（団体の基本情報・活動計画・事業点検評価）を各団体が作成・提出
- ・社会教育員会議で助言を集約し事務局から団体へ伝える。団体は必要に応じて修正。
- ・社会教育委員は活動計画シートの情報から事業をピックアップし活動に参加。

○学びの好循環 ○社会教育委員自身の成長

これからの社会教育委員に求められるもの（現場に参画しながら自らの「学び」に励む・  
 コーディネーター役としての資質。SDGs の視点）

質問：社会教育団体からの反発はなかったのか→上から目線ではないかと思われる向きも  
 あったが、寄り添うこと、ともによくなっていくことを意識して活動。

助言（眞鍋知子金沢大教授）事務局と団体と社会教育委員の三方よしにたどり着けた活動。  
 社会教育委員として学び続ける姿勢。

川北町社会教育委員（第 2 分科会「青少年の健全育成」より）大会冊子 37～42 頁  
 小さいからできる川北町を好きになる子どもづくり  
 ～かわきたの明日の子どもを育てる町民会議の取り組み～

1995 年に「かわきたの明日の子どもを育てる町民会議」（社会教育委員 4 名、PTA 等から  
 選ばれた推進委員 6 名）による「かわきたの豊かな心を育むみんなの集い」

「子どもサミット」「町民会議・専門部会」

まとめ：子どもたちが行事に参加し川北町について考えることにより「自分たちが町を何  
 とかする」という意識の醸成。川北町には中学校までしかない。町外に出ていく子どもた  
 ちが町に帰ってきたいとなるように。小さなころから子どもたちに町のことを考える機会  
 を与えることで「自分たちの町」という意識が生まれるように。

質問：子どもサミットのメンバーは毎年変わるのか。どう選ぶのか→3 小 1 中の校長に任  
 せている（各校 2 名）。町のエースを育てる。

高校生のサミットを作ってはどうか→4 年目くらいなのだが、高校生を呼び集めるのは大  
 変。成人式で集まった際にまた交流をもつようにしている。

子どもサミットでスケッチブックしか使わないのはなぜか→小さい子から大きな子までい  
 るので格差が生まれないように、恥をかかないように、大人が手伝わないように。

どのように始めたのか→数年前に富山県であった大会で滑川市の事例を聞いて開始。滑川市からの「子どもに任せるべき」という助言が大きかった。

助言（桑村佐和子金沢美術工芸大学教授）町民会議をもつところはそれなりにあるが継続することが難しい。次世代育成に（若手の）社会教育委員が入ることであまりうまく回っている。

#### イ 歓迎アトラクション 12:40～13:00 子供歌舞伎 勸進帳

#### ウ 開会行事 13:00～13:40

エ 記念講演 13:45～14:50「御御御付と腸を考える」ヤマト醤油味噌山本晴一代表取締役  
歴史ある5大産地 野田・播州龍野・小豆島・大野・銚子

発酵食文化を通して、お客様の健康と喜びを支える

日本人は何を食べてきた民族なのか？ 奈良時代米麴、室町時代種麴菌、江戸で三度食  
永平寺の食事（760年前から同じ内容で長寿）一汁一菜一麴

食べたものが食べた以上に出ているということが「健康」。善玉菌が多い黄色・オレンジ。

善玉菌の大好物：食物繊維・発酵食品・オリゴ糖（発酵食品から大腸で自然生成）

毎日（4日間くらいの範囲で）取る必要がある。味噌・醤油が優れモノ

食物繊維「まごはやさしいこ」、大麦も（海軍では脚気ほとんど出ず）

現代食：脂質が多く代謝があがらない

玄米食：ビタミン・ミネラル、食物繊維、発酵食品で代謝アップ

健康長寿のために「貯金」ではなく腸内「貯菌」

かしこさの階段（札幌市小学生）→ヤマトの乗組員がのぼる階段

オ シンポジウム 15:00～16:25「人びとが豊かに暮らすまちづくりを目指す 新たな学び」

コーディネーター：浅野秀重金沢大学名誉教授

基調講演より○魅力ある社会教育事業の企画・実施、PDCAサイクルの実質化

○住民の思惟（満足度、期待度など）の把握、既存事業の点検・評価

・ふりかえりの成果を活かした新たな取り組み、広報→社会教育

事業の質の向上 ○SDGsの視点

まとめ○地域社会における学びを地域社会を創る学びに

○地域づくりの担い手（builder）育てとなる「攻め」の社会教育事業・活動の推進を

○主体的・対話的で協働的な「学び」と「活動」重視による地域コミュニティの創造的再生へ

シンポジスト 永井三岐子国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわ

オペレーティング・ユニット事務局長

榊谷泰裕野々市市観光物産協会事務局長 公共施設を地域づくりに生かす

関戸正彦石川県公民館連合会会長 公民館の学び 幸みん館感観歓環幹

カ 閉会行事 16:30～16:40 次年度担当県（広島県）によるPR 百万一心